

令和 7 年度 第 1 回下野市地域自立支援協議会 議事録

日 時 令和 5 年 5 月 27 日(火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 50 分
場 所 下野市庁舎 203 会議室
出席者 委 員 :別紙参照
欠席者 1 名 本田 陽子
アドバイザー :大嶋コーディネーター
事務局 社会福祉課障がい福祉グループ 増渕、小林、阿久津、石川
障がい児者相談支援センター 小川、手塚、鈴木

傍聴人 小林 瑞 様、中島 理恵 様、民上 由奈 様、平川 寧音 様
審議内容 (原則として発言委員名を明記し、発言の要点のみを記載している)

第1部 全体会 午後 1 時 30 分から午後 2 時 25 分

1. 開会

社会福祉課 篠崎課長

欠席報告 本田委員

2. 委嘱状交付

荻原健康福祉部長より委員を代表して野中委員に交付

3. 部長あいさつ

4. 自己紹介

5. 会長・副会長あいさつ

6. 議事

議事録署名人に藤田委員、鈴木委員を指名し了承。

(1) 会議運営に関する確認事項、下野市地域自立支援協議会の構成と役割
(事務局)

資料1-1、1-2、1-3に基づき報告。

(2) 下野市地域自立支援協議会 令和 6 年度事業報告および令和 7 年度事業計画
(事務局)

資料2-1、2-2に基づき報告。

(3) 障がい者優先調達 令和 6 年度実績報告および令和 7 年度推進方針
(事務局)

資料3-1、3-2に基づき報告。

(鱒淵会長)

障害者優先調達推進法に基づき、各市町は障害者就労施設等から物品等を優先調達する目標額を公にしなければならないということで、平成 25 年から活動している。

下野市でも一時は 170 万を超えるような金額もあったが、コロナ過にあった時、市で主催する行事が多く減った。そのため、今はそこまでの金額はないものの、コロナの影響が落ち着きを取り戻すなか、障害者施設で出せる物は何かを検討していただいた結果、昨年は 150 万を超え、目標を大きく超える金額を達成することができている。令和 7 年度につきましても、昨年の実績を少しでも上回る金額を達成できるように、市内施設連絡会でも 160 万という金額を目標額として設定した。この目標額が達成できるようにこの 1 年間を努力していきたい。

(4) しもつけハートフルプラン 令和 6 年度評価および第 7 期計画
(事務局)

資料4-1、しもつけしハートフルプラン第7期下野市障がい福祉計画に基づき報告。

(5) 下野市障がい児者相談支援センター 令和 6 年度業務実績および令和 7 年度計画
(事務局)

資料5に基づいて以下のとおり報告。

- ・基幹型の相談支援センターで、令和元年度から現在の体制で活動している。
- ・センターの役割としては、個別ケースの相談に応じる一方で、障がい児者の暮らしやすい地域づくりを目指して活動している。
- ・個別支援の実績では、実人数に関しては前年度と同数程度だが、のべ件数でみると前年比で 300 件ほどプラスになっている。のべ件数の増加として、電話やメールで問い合わせする方が多かったのが要因と思われる。障害種別としては、精神障害、発達障害からの相談が増加傾向にある。
- ・個別ケースから把握した地域課題では、毎月開催している受理ケース会議から上がってきた地域課題が主である。主に支援関係者の資質向上、支援機関の連携、親なきあとの支援について。資質向上に関しては相談支援部会で研修を行っており、親なきあとの問題化については障がい福祉セミナーでも取り上げている。

・令和 7 年度の計画では、個別支援に関して地区担当のそれぞれの専門性やケースの件数等に応じて柔軟に対応していきたいと考えている。

(鈴木副会長)

・社会情勢の変化と共に福祉も大きく変化してきていることを感じる。

グループホームの利用者が増えてきている。以前は無くて困ることでの相談が多かった。今後は「質」の部分が求められてくると想像する。

(6) 障がい福祉サービス等の情報提供

(事務局)

資料6に基づいて報告。

(7) 日中サービス支援型共同生活援助の評価について

(事務局)

資料7に基づいて報告

(鯉渕会長)

日中支援型のグループホームが下野市には 2 か所あり、今年度はそのグループホームに評価視点の内容を記入いただき、自立支援協議会のメンバーにはその内容を評価していただき、結果内容をグループホームに報告する。

新たに 8 月にオープンするようなグループホームは、今年度の評価対象にはならないため来年度の評価となる。

今年度は初めての評価になるので、実際にこの評価シートの内容がふさわしいのかどうか？より良くするためには具体的にどんなところに着目するか？など、改善点を模索して欲しい。

(8) その他

(事務局)

なし。

第2部 部会 午後 2 時 35 分から午後 3 時 35 分

【相談部会】

(目標 1)

相談支援体制のフォローアップとして、初任者研修受講者のフォローアップ研修を実施し、3 年支援を計画としている。障がい児者相談支援センターがバックアップ機能を有しているが、ケースが複雑多岐にわたり、初任相談員の負担が大きくなっている。

(目標 2)

グループホーム支援者のフォローアップとして、施設への現況調査(アンケート式)を実施し、施設で「困っていること」や「あったらいいな支援」など、「必要な職員支援」を検討し研修会を実施した。グループホームの増加に伴い、無資格での支援者が増加しており、介護支援に対する不安が見受けられるため、支援の質の向上を目指す。

(目標 3)

地域活動支援センターゆうがおが周知されていない現状があるうえ、「ゆうがお」の職員も活動内容に困っている。ひきこもり相談も増えているので、「ゆうがお」の活用方法を検討したい。

【就労部会】

(目標 1)

企業との連携強化を図ることを目標に、就労支援についての研修や意見交換会を実施した。支援学校から就労までの流れや、就労事業所との連携についての講義を受け、活発な意見交換が行われるなど、アンケートも良好な意見が多く有意義なものとなった。

(目標 2)

障がい者週間において、障がい者雇用に関することを市広報誌に掲載した。記事を読んだ市民の方から「福祉的就労を検討したい」などの相談を受けるなど、就労支援等につながる契機になると良い。

【こども部会】

(目標 1)

発達障がいのある子の支援の理解を深めるため、研修会等を実施している。栃木県発達障害者支援アドバイザー派遣事業を初めて活用し講義を受けた。「体験型」の研修で、より実感を伴った理解に繋がるなど満足度の高い研修であった。

(目標 2)

児童発達支援・放課後等デイサービス事業者連絡会を年2回開催し、保護者や相談支援専門員が利用しやすいリーフレット(A4)を作成した。市の2次検診でも活用した。

(目標 3)

教員の発達障がいや福祉サービスに対する理解を深めるため、学校教育課で実施している研修において、発達障がいや福祉サービスの内容についても取り上げて頂いた。発達障がいや放デイについて、教員が学ぶ機会が少ないことから非常に良い機会となった。

8. 閉会

議事録署名人

